OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	創意に溢れた学会
Author(s)	保川, 圭司
Citation	大阪公衆衛生. 1969, 21, p. 16-17
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84394
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

学会報告



第26回日本公衆衛生学会総会が，昨年10月23日から3日間，小雨煙る京都で，京都会館を中心に開催されました。今回の学会は，いろんな意味で極めて京都的な学会であったと評されていますが，参加された協会員のなかから，その印象を寄せていただきました。

第26回日本公衆衛生学会総会の印象

創意に溢れた学会

保　川　圭　司

今回の学会において，第一日第一分科会の座長を担当したが，まず，開会直後の会場は聴衆もまばらであろうという予測を見事にくつがえされ，続々と会員がつめかけみるみる席がふさがれて，立ったまままく人もでる盛会ぶりには驚かされた。公衆衛生学会の幕あけがすでに熱気をはらんでいたといえよう。

小生も衛生行政，衛生統計などの部門の座長を担当したのはこれが初めてのことで，きわめて貴重な体験であった。今学会が現役の保健所長をつとめて座長に登用したことは，ともすれば学会という名において，大学におんぶされてきた従前より脱却し，公衆衛生第一線従事者の学会にふさわしい雰囲気づくりを目指した努力のあらわれとして印象深い。すなわち，公衆衛生関係者に親しみと自信を与え，関心を深め，学会をもり上げるのに大きな役割を果したものとして注目される。小生も担当演題については，あらかじめ送られた講演集の切り抜きを精読し，できうる限りの準備をしてのぞんだので大いに勉強になった。また，討議を深めるための創意がみられ，あらかじめ講演集を作成しスライドを用いず，当日の発表も講演集との重複を避け討議に十分な時間をあてるなど，初めての意欲的かつざん新な手法を採用されたことは特筆すべき特色であったが，当日購入する講演集が事前に入手できれば，なお一層所期の成果をあげえたものと思う。

第一分科会は会場設営の面で，やや廊下の騒音に悩まされ，またマイク設備がないため演者の発表に明瞭を欠くうらみのあったことは，経費節減の余波（？）とはいえ惜しまれる。討議はなかなか活発で，発表の内容上推計学を用いた難解なものが多かったにも拘らず，保健所職員の熱心に耳を傾ける姿がみられた。また，時代の流れを反映して電子計算機を用いたものが可成りあり，こうした研究が行政の場で実用化される日の一日も早いことが望まれた。保健計画をテーマとしたものは，地域開発の一環としての保健計画の策定が重視されるおりから，急激な社会変動に対応して，保健所が指導的な役割，機能を確立する裏付けとなるもので，この分野における研究を行政に反映させることこそ緊急の課題と考えられ，保健所と大学との一層の緊密化，連携強化が図られねばならないとの感を深くした。

たまたま，ライスオイル事件と重なり，十分見聞する時間に恵まれなかったので，的を失している点もあろうと思うが，各会場とも多数の会員の参加を得てきわめて活発な討議が行なわれたようであり，行政の広

域化，技術の高度化を焦点として，保健所問題が新らしい局面を迎えつつあるときに開かれた本学会は，地方自治に対する深い認識のもとに展開された総会シンポジウム，関連シンポジウムにもみられる如く将来への展望において，住民の福祉に直結した巾の広さと密度の濃さをもち，創意に溢れ新らしい息吹を感ぜさせる公衆衛生学会であったと言えるのではなかろうか。

（港保健所長―現大阪市衛生局保健課長）